

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適用 措置	感染症(ヤ)	出典	概要
												トリパノソーマ 症	Vox Sang 2006; 91(Suppl 3): 98	フランスでリスクのある供血者に対し、シヤーガス病スクリーニング検査を行うこととなり、Bioelisa Chagas, Chagatak, Ortho T.cruzi ELISA Test System 1, ELISA Cruzi の4種類の Trypanosoma cruzi ELISA キットの感受性、再現性、特異性を評価した。感受性、特異性に関しては全てで正確に検出された。再現性は24コピーのS/CO値の平均の変動係数によって示され、各々、6.30%、9.30%、15.7%、22.40%だった。
												トリパノソーマ 症	AABB Weekly Report 2006; 12(43): 1-2	FDAがシヤーガス病の供血者スクリーニング検査試験を初めて認可したのをきっかけ、米国血液銀行協会 (AABB) は、採血施設が検査導入とその期間を決定し、供血者と受血者のフォローアップのためのガイダンスを提供するのに役立つよう、協会公報#06-08を12月14日に発表した。具体的な勧告内容は、出荷停止、溯及調査、自己血輸血で繰り返し検査陽性となった場合の成分製剤出荷の認可、供血延期措置、通知、確認試験、供血者の医学的評価のための供血延期などの事項が盛り込まれている。
												トリパノソーマ 症	Transfusion 2007; 47: 540-544	神経芽細胞腫(スティーヂ4)を発症した3歳半の女児が複数の血液成分製剤投与を受けた後、Trypanosoma cruzi によるシヤーガス病と診断された。輸血された製剤の全供血者の血液を再検査したところ、初回供血者1名がT. cruzi 抗体陽性であることが判明した。当該供血者は、トリビア出身であり、17年前に米国に移住した。移住後は母国に帰国していない。本症例は、米国・カナダでの輸血によるシヤーガス病感染の7例目の報告である。シヤーガス病スクリーニング検査が必要であることを示している。
												チクングニヤウィルス感染	毎日新聞 2007年1月24日	1月24日、厚生労働省はスリランカから帰国した30歳代の女性が、チクングニヤ熱に感染していたと発表した。国内で日本人の感染が確認されたのは初めてである。女性は2006年11月中旬、スリランカで発熱し、現地でチクングニヤ熱かデング熱と診断された。女性はすでに症状は回復し、在住するスリランカに戻っている。厚生労働省によると、チクングニヤ熱は発熱や関節炎、発疹などが特徴で、死亡率は極めて低い。蚊を介して感染し、人から人への感染はない。
												HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	2000年12月から2001年10月に輸血を受けたウガンダのKampalaの患者1811例のうち、輸血前にヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陰性であった患者991例について追跡調査を行った。そのうち43%(425例)にHHV-8血清陽性血が輸血された。991例中41例にHHV-8セロコンバージョンが起こったが、セロコンバージョンのリスクは陽性血を輸血された患者の方が陰性血を輸血された患者より有意に高かった。